



梼原町の産業の柱は農業と林業です。

栄郷」を合言葉に積極的に植林を行って 千ヘクタールのうち91%を占めています。 きた成果でもあります。 すものと考え、「町土の全山緑化」「植樹 とが町民の生活向上に大きな役割を果た 先人たちが木材需要の増加に対応するこ これらの森林の多くは、戦後、梼原の 梼原町の森林は、町の総面積約2万4

になりました。 代の20%から73%に伸び、先人たちの努力 が実を結び、豊かな森林資源を有すること のうち人工林の占める割合は、1950年 このため、民有林約1万8千へクタール

森林面積

積 23,645ha

21,431ha

高知県

高知県梼原町 大学で地方創生

梼原町森林づくり基本条例

基本理念1

森林の有する機能の高度発揮

基本的施策

- 1)経済的機能の高度発揮
- 2)多様な機能の確保
- 3)森林生態系の保全
- 4) 適切な森林管理

基本理念2 林業の持続的な発展

基本的施策

- 1)林業の基盤整備
- 2)人材の育成及び確保

FSC認証の取得に向けて取れ業の振興に取り組む中、林業においても、環境への配慮が求められるようにでも、環境への配慮が求められるように高知県では、環境保全に配慮し、経済的にも持続可能な森林経営を進めるため、高知県では、環境保全に配慮し、経済が記証の取得推進に取り組み、「森林認証の取得推進に取り組み、「森林認証勉強会」を開催しました。これをきっかけとして、梼原町では平成11年からFSC認証の取得に向けて取成11年からFSC認証の取得に向けて取成11年からFSC認証の取得に向けて取

り組んでいます。 の基本条例に基づき、様々な施策に取るため、「梼原町森林づくり基本条例に基づき、様々な施策に取れるため、「梼原町森林づくり基本条四点を平成12年に制定しました。以降、株の維持と豊かで住み良い町づくりを実的には、森づくりの基本理念と基ない、株の基本理念と基ない。



FSC 認証の加入状況

(単位:ha)

		第1次		第2次		第3次		第4次	
	区分	平成 12 年 10 月		平成 17 年 10 月		平成 22 年 8 月		平成 27 年 7 月	
		人数	面積	人数	面積	人数	面積	人数	面積
	民有林	96	1,960	1,222	11,023	1,505	12,948	1,485	13,107
	私有林	94	1,207	1,220	10,226	1,503	12,152	1,483	12,311
	公有林	2	754	2	797	2	796	2	796
国有林		1	289	1	289	1	290	1	290
合 計		97	2,249	1,223	11,312	1,506	13,238	1,486	13,396

団体としては国内で初めてFSC認

平成12年10月に梼原町森林組合



国土調査の取組

近年、施業の集約化が求められる中で、境界の確定や所有者の特定が障害となっています。

梼原町では、あらゆる産業の基盤となる土地についての基礎資料の重要性を鑑み、昭和38年から国土調査に着手しました。約4億5百万円の費用と約7万4千人を投入して、国有林を除く約209平方キロメートルに及ぶ地籍調査が事業当初の計画どおり20年間の歳月をかけて、昭和59年3月に完了しました。

また、戦後植林を進めた人工林の施業履歴も把握できていたことから、地籍調査の完了とあいまって、他の地域に比べ、路網整備や施業の集約化が順調に進められています。

環境モデル都市の目標(2009年1月23日認定)

「森の資源が循環する公民協働の"生きものに優しい低炭素なまちづくり"」の実現







- ☆ 2050 年に CO₂ 排出量を 1990 年基準 (23,634t - CO₂) の 70%削減
- ☆ 2050 年に CO2 吸収量を 1990 年基準 (16,200t - CO₂) の 4.3 倍増
- ☆ 化石燃料からのエネルギー転換、森林整備 により森林吸収を高める。





小水力発電



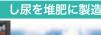
温水プールでの地中熱利用













まちづくり

標高1300mの四国カルストにデン

低炭素な

生き物に優し



の実現に向けて取り組んでいます。 最大限に資源や経済が循環する社会 人間

をはじめとする生きものが健やかに共生 自然の恵みを大切に活かしながら、 年に環境モデル都市に認定されました。 まちづくりを進めています。 を供給できる町を目指し、 てをまかなうだけでなく、 いますが、 光] 「風」 「土」 「森」 「水」 このような取組が認められ、、 将来は、 町内で使う電気すべ 町外へも電気 梼原の豊かな を活用した 平 成 21

> 設置し、 タールの森林で間伐が行われました。 交付する事業を実施し、 に1ヘクタール当たり10万円の交付金を 助や新エネルギー活用施設の設置に対す 成23年度まで、 る補助の財源として活用されています。 金として積み立てられ、 益が発生します。 会社に売電され、 ーク製の風車 この仕組みにより、 この風車により発電した電力は、 風力による発電を行っています。 間伐を行った森林所有者 (600kWh) この売電益は、 年間約5千万円の売電 平成13年度から平 間伐実施への補 6409ヘク 環境基 2基を

の約3割は自然エネルギーでまかなって

置されています。

現在、

町内で使う電気

ネルギーを利用した施設が町内各所に設

梼原町には、太陽光や風力など自然エ

太陽光発電施 町民 設等の設置 新エネルギー施 電力の節約、 間伐材搬出 設の導入や搬出 売電・良い生活 間伐への補助 森林 風車 電力 運営 自然環境 自治体 売電益年間 約5千万円

(循環する仕組み)環境 基金

森林バイオマス地域循環モデル事業プロジェクト ~森林資源の循環で CO2 削減と地域経済(林業)の活性化を目指す~ H12~FSC 材 H18~ ・協働の森づくり 工務店との直接取引 自然散策。 森林ボランティア 環境共生 エコツアー 空気・水・生物 里山の再生 П ~教育・環境の場~ 建築資材 農地 主伐・間伐材 燃焼灰 製材所 ペレットストーブ 未利用資源 H20.4~ ペレット焚き ペレット製造開始 冷暖房システム



【矢崎サマーキャンプ】

工場・一般施設



例年、

4 月 29 日

(昭和の日) に梼原町

木質ペレット

材所の端材などの未利用材をペレット化 森林整備及び保全と二酸化炭素の削減を 梼原町の林業の活性化を図りながら、 燃料として活用することにより、 森林整備の際にでる間伐材及び製

始めました。

「自然散策

平成18年から梼原町、

事業に賛同する企 高知県の4団体で

梼原町森林組合、

源の循環利用を目指すプロジェクトを、

ペレット工場

資 コツアー 主に、「里山の再生」、 「環境共生」の取組を行って

①里山の再生

森林ボランティア恊働の森づくりの実施] ・教育・環境の場~

回行っています。 ション能力の向上など生きる力を自然に 育むことを目的に森のようちえんを年4 森の中で過ごすことでコミュニケー ティアによる森林整備を実施しています 業の方々を中心に約200名のボラン

(森づくりに協賛していただいている企

【森のようちえんの実施】

民との交流を深めました。 こい踊りなど梼原の自然を肌で感じ、 ーキャンプを梼原町で開催しています 樹木の間引き作業や紙すき体験、 事業に賛同する企業が主催する国内サ よさ 町

地域循環モデル事業。プロジェクト

7 2016.8 No.113 林野

②自然散策・エコツアー ~森林セラピー~

現在は、「久保谷セラピーロード」、「0 の認定を受けており、「森の力」を地域 AAOロード」の2本のセラピーロード て森林セラピー基地の認定を受けました。 に活かす取組が行われています。 【久保谷セラピーロード】 梼原町は、平成19年3月に四国で初め

事業に賛同する企業と協働で平成21年



久保谷セラピーロード

OAAOD-F

けています。 を受けました。最初からセラピーロード ロードは全国的にも珍しいとの評価を受 としての使用を目的として整備された より整備に着手し、平成23年3月に認定

③環境共生 〜空気・水・生物〜

業を実施しています。 の木材利用を促進するため、 揮を図るとともに、 はじめとする森林の多面的機能の高度発 四万十川源流域の水質・水量の確保を 梼原町水源地域森林整備交付金事 木材供給及び町内で 平成25年度

域住民による取組が行われています。

平成21年には、

ロードが所在する松原

ングコミッティより認定を受け、以来、地

平成19年3月に森林セラピーステアリ

工場またはペレット工場に木材を出荷し た森林所有者に対し、 たり4千円の交付金を交付しています (環境基金を財源とした事業です)。 搬出間伐等を行い、町内のFSC認証 1立方メートル当

特に町立松原診療所の医師と連携した取 が発足。認定ガイドも年々増加しており 訪問客の受け皿となる「松原まろうど会」 地区に民宿が2軒開業し、その翌年には

全国から注目されています。

町産材活用促進 事業補助金

町産材利用 新築 200 万円を 上限に助成

さらに 40 歳未満の方

若者定住住宅 整備補助金

100万円の助成 増改築 20~200万円の事業費 の 50% を助成



家づくりへの支援

用することで受けられる助成や、さらに たいとの思いから、梼原町産の木材を利 に添えるよう、お手伝いさせていただき る大切な要素のひとつです。町民の希望 住まい作りは、豊かな人生を築き上げ

事業も行っています。 改修を行い、移住定住希望者に貸し出す また、 家主から空き家を借上げ、

移住定住促進 空家活用事業

(家主)

- ・12年間町へ無償貸与
- ・固定資産税免除

(町)

- ・改修費 700 万円まで
- ・12年後家主に返還

台所、浴室、トイレ 耐震改修

(移住定住希望者)

・使用料 15,000 円/月



高知県梼原町 郷林業で地方創生

木材の利活用

物を中心として積極的に木造化を推進し てきました。 の保存に努めるほか、 梼原町では、古くからの木造の建築物 早くから公共建築



芝居小屋「ゆすはら座」



おもてなしの場「茶堂」

東京オリンピック・パラリンピックのメイン会場の 「新国立競技場」の設計も手がける隈研吾氏が設計した施設が4つあります。



雲の上のギャラリー



梼原町総合庁舎



雲の上のホテル・レストラン



修を定期的に行っています。

図るため、

先進地の見学や、

講師を招いての研

また、若き担い手たちの技術・知識の習得を



屋根付きの木橋



アーチ型の木橋

の取組を進めていきます。 森林資源を有効に活用しながら、 資源を有することになりました。今後は、この い森林を健全な状態で後世に継承していくため 梼原町では先人たちの努力により豊かな森林 かけがえのな

産業の担い手の 育成・確保

年間補助しています。 で行い、その育成費用として年180万円を3 の担い手の育成・確保を図るため、 に「ゆすはら産業担い手育成塾」を設立し、 い手づくりの取組をスタートしました。 普段の現場力の育成は、雇用している会社等 基幹産業である農業と林業、並びに商工業等 平成27年度 担

